壁面製作についての一提案
―造形表現の授業実践報告―

西村　愛子

A Proposal Concerning Wall Displays
―― Teachings Report on Modeling Expressions ――

Aiko NISHIMURA

本稿は、保育内容「造形表現」の授業の中で行なった、壁面製作に関する授業実践報告である。幼稚園・保育所における保育室の壁面製作についての先行研究は、歴史や意義という観点から行なわれ、また事例報告もなされてきている。しかし、現在の日本の保育施設でみられる画一化された「保育らしい・かわいらしい」イラストに依存した壁面製作に、置き換わる具体的な提案は少ない。そこで、筆者がアート作品として展覧会に出品した「HAPPINESS」という作品の手法を用いて、子どもたちと共に製作することができる壁面製作を提案し、保育内容「造形表現」の授業の中で製作することを試みた。活動内容は、「切り紙」と「にじみ絵」の技法を用いて、約１メートルほどの大きさに拡大して共同製作で行なった。その結果、1）形・色彩で多様な個性を無限に表現できる、2）偶発性により想像力を働かせる、3）即興性により連続的活動になる、4）作品の巧拙を問わない、４つの特長が挙げられた。今後は、本提案を結実させるために、子どもたちと共に製作し、現場での実践を通して検証することが課題である。

キーワード　造形表現、壁面装飾、壁面構成、切り紙、にじみ絵

Ⅰ．背景

壁面製作は、明治９年「黒板書」が起源であると考えられ、これまで幼稚園・保育所の保育室を明るく彩る環境づくりとして、様々な目的や方法で用いられてきた。

現在の日本の壁面製作の特徴の一つとして、「保育らしい・かわいらしい」イラストが挙げられる。しかし、そのイラストの多くはどこか同じようなものとなって、多様さが失われた表現となっているように感じる。

その理由のとして考えられるのは、保育者が、かわいいアイデアを毎月提供している『PriPri』や『Piccolo』という保育雑誌などを見本として用いているからであると思われる。幡野・山根・小田倉[1]の調査研究（2009）によると、東京都及び埼玉県内の私立・公立幼稚園に勤務する保育者59名のうち、壁面に用いる絵やイラストを選ぶ際に参考にする媒体として、保育雑誌や、インターネットなどのイラスト集から入手するという回答が83.1%であった。このことから、保育室のイラストが同じようなものになって、多様さに欠けた表現となっているのであろう。

「保育らしい・かわいらしい」イラストは、保育室に安心感や楽しい雰囲気を作りあげることができるというプラスの効果もある。しかし、

その反面、デフォルメされた動物表現など、子どもたちに固定観念を植え付ける要素にもなりかねない。

また、保育者は、季節のイラストで子どもたちが季節感を意識できるようにというねらいを持っているかもしれないが、実際に、子どもが五感で感じる、空の色の違いや、季節の匂い、風の音など、季節を感じる様々な感覚が養われているのかどうかはわからない。むしろ、わかりやすく説明的な、イラスト表現を吸収しつづけることによって、豊か感性を育むどころか鈍感にしてしまう可能性はないのだろうか。

先行研究の中で、壁面製作における現状を把握することを目的とした事例報告や、壁面製作の歴史や意義について考察がなされてきた。しかし、壁面製作について提案した実践報告は少ない。そこで、現在の「保育らしい・かわいらしい」イラストによって、多様さに欠けた壁面製作の表現に対して問題意識を持ち、豊かな感性を育み、簡単に表現できる壁面製作を提案することを試みた。

それは、「切り紙」と、「にじみ絵」の技法を用いた「HAPPINESS」という作品の手法を、保育内容「造形表現」の授業の中で実践することであった。実践するにあたり、絵が苦手で手先が不器用な学生でも容易に製作できることを配慮した。また、個の表現を追求することにとどまらず、共同制作をすることによって、協力して作る過程を学ばせ、そして、豊かな色彩と様々な形が美しく、芸術性を見出し得る壁面製作を提案することとした。

なお、『壁面構成』、『壁面製作』は同義語であると考えられているが、本稿では、「壁面に製作物を飾る」ことについて考察していくため、ここでは『壁面製作』という言葉を用いるとする。

Ⅱ　技法について

A-1.「切り紙」について

「切り紙」は、折る・切る・開くという簡単なプロセスで美しいカタチ（模様）を作ることができ、また、折り方と切り方によって、開いた時に様々な形を作り出すことができる。そのため、何かを作ることに自信がない、また集中力がないなどにとらわれずに、子どもから大人まで、幅広く親しまれている活動である。

切り紙作家の矢口加奈子は次のように述べている。

「折って切って開くと、そこにはその瞬間だけの一枚が表れます。」[2)]

その瞬間の“感”を頼りに、自由につくることができ、その時、その場で生み出される即興性の高い表現方法であるといえる。

材料は、通常折り紙を使用することが多く、正方形の薄い紙が適している。折り方は、2つ折り・4つ折り・6つ折り・8つ折り・12つ折り・16つ折り等の方法がある。桜の花や、雪の結晶など、図案を参照して具体的に形を切り抜いていくこともできるが、仕上がりを意識せず切り抜くことによって、開いたときの偶発的な形状を楽しむことができ、形を予想するということで、想像力を養う効果も見込める。また、簡単に、様々なカタチ（模様）を作ることができることから、何度も繰り返し作りたいと思わせる、連続性の効果が見込める活動である。

A-2.「切り紙」の授業実践

保育内容「造形表現Ⅰ」の授業で、受講記録の表紙[図1]のデザインに「切り紙」を使用した。受講記録は、一人一部づつ、通年に渡って使用するものである。色彩の配色を選択をすることができるように、台紙の色画用紙・背景の折り紙･切り紙用の折り紙を､各12色以上用意して、好きな色を選ぶことができるように準備した。完成した表紙の「切り絵」を通して、個々の学生の感性を視覚的に知る手がかりとなった。製作した学生の感想及び考察は次の通りであった。

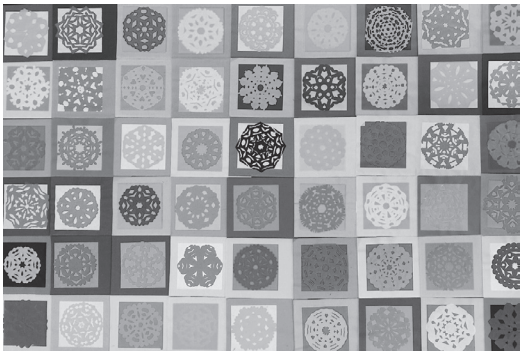

図１ 保育内容「造形表現」 受講記録表紙

	学生の感想	考察
個性・表現	・一人一人の個性がよく見えて、友だちのものを見るのも楽しかったです。 ・一つ一つ色を選んで作ったのでそれぞれの個性が出ておもしろかった。 ・自分だけの「形」を作ることができて、特別感を味わうことができました。 ・自分の好きな色や形で、その人の個性や性格的なものがあらわれているような気がしました。 ・友だちとたまたま同じ色を選んだけど、仕上がりは違うものになりました。 ・色や形で人柄がしっかり表れていて、友達の作品をみて本当に造形は感慨深いなと思った。 ・同じ物はひとつもなく十人十色ですごく面白かった。色合いや形も個性があり、人と照らし合わせるのが楽しかった。 ・色の組み合わせ次第でこんなにも表情が変わるものだということを学ぶことができました。	自分自身で選んだ色と、その瞬間にできあがった形を、組み合わせることで様々な表現が生まれ、その人の個性となっていることを、体験していることが伺えた。
偶発性→想像	・自分だけの世界に一つのものを作る楽しさを実感できた。 ・想像して切ったり適当に切ったりできるのも魅力だと思いました。 ・自分の作品がどうなっているのか想像できず、ドキドキワクワクしながら作った。 ・開いた時に初めて形がわかって感動した。 ・切っている間、開いたらどんな形になるのかとてもワクワクしながら切っていた。無意識のうちに子どものような気持ちで切っていた。 ・どんなふうになるのか全く予想がつかなくて不安だったけど、適当に切っても意外といい感じになっていて安心しました。自分で想像し、どんな形になるか考えながら切るのが楽しかったです。 ・適当に切っていくだけで開いてみたらハートになったり、予想もしない形になるのが面白いと思いました。 ・想像した形とは全く違くて面白かったです。	切り方によって、偶発的に出来上がる形が、どのようになっているのか想像する力を働かせながら、作ることを楽しんでいる。また、どうなるのかわからないという、不安がスリルとなり、想像と結果がどのように結びつくのかを考え、期待感につながっているようだ。
即興性→連続	・切り方によって全く違った形になっていて面白いと思った。いろいろなものを作りたくなりました。 ・開いた瞬間、想像していたものと違う模様で少しショックだった。友だちの模様がうらやましい。次はもっと細かく切りたい。 ・その時の一回しか出来ないから面白かった。家でもやってみたいと思った。 ・どんな形になっていくのかワクワクしながらすることできたので、もっといろんな形ができるようになりたい。	他の人と比較することで、自分もそのような物を作ろうという表現の可能性が広げられ、簡単なプロセスで一瞬にして形ができあがるからこそ、繰り返し作りたくなる連続性のある活動であることが理解できた。
巧拙問わない	・折り紙を適当に切ったのに、我ながらすごくかわいくて芸術的な作品になりました。 ・考えて切るよりも適当にやった方が上手になった。絵をかくのではなく、切っただけで自分を表現できるのだと改めて感じた。 ・感覚で切っていった。 ・ハサミを使って切るだけで綺麗な模様ができるのにびっくりした。 ・適当に切ったらかわいくできてよかったです。「やってみる」ことが大切だと思いました。	簡単で、上手い下手が要求されていないので、切ることにプレッシャーを感じずに取り組むことができたことが伺えた。

B.「にじみ絵」について

「にじみ絵」は、シュタイナー教育で推奨されている絵画技法の一つである。色が広がって混ざり合い、形にとらわれず自由に表現することできるため、子どもの感性を育み、心と体が伸び伸びと発達することにつながる活動として推奨されている。

「にじみ絵」と同様に、幼児の造形活動で用いられている色が混ざり合う絵画技法の一つとして、「折り染」があげられる。「折り染」は、紙を繰り返し折り、水で溶いた絵の具に浸すことによって、紙に色がにじむ。そして、開いた時に、規則的に色が並び模様となる。

「折り染」に使用する紙は、和紙・障子紙・半紙などのにじみやすいが、水に強く破れにくい、薄い紙を使用する。「切り紙」と同様に、折り方や染め方によって、様々な模様を作りだすことができる。上手い下手によって左右されず、和紙を折らずに、くしゃくしゃにまるめて染めても、不規則な模様ができるため、2、3歳児の活動でも取り組まれている。

Ⅲ　作品「HAPPINESS」について

「切り絵」と「にじみ絵（折り染）」の技法を組み合わせることによって、互いの美しさを効果的に表現することでできることに魅力を感じ「HAPPINESS」[図2]の制作を始め、アート作品として展覧会[図3]に出品した。

「切り絵」と「にじみ絵（折り染）」の技法を、1メートルほどの大きな紙で制作した。このようにスケールを肥大化することによって、日常のスケールから解放された雄大さを表現した。肥大化する表現は、私の今までの作品の中で、度々用いてきた表現方法である。その意図は、物のスケールを大きくすることによって、人間を小さく見せる効果をねらった。それは、自分が小さいと感じる感覚を味わためである。そのように感じることは、自分の狭い視野から抜け出すきっかけになると考えている。自分が小さいことで、抱えている問題や悩みも同時に小さいと感じられよう。物のスケールを大きくすることによって、自己の狭い視野から抜け出した解放感につながる。それは、雄大な風景を目の前にした時の感覚とも近いものがある。私は作品を通して、そのような感覚を表現することを追求してきた。

そして、それらをヘリウムガスで浮かせることによって、「HAPPINESS」というタイトルの意味に込められているように、幸せを予感させ、または幸せが生まれるような、浮遊した感覚をインスタレーションで表現した。バルーンは、空調によって、微動したりしながら、時間がたつにつれて、浮力が低下していくため、展示期間､細やかなメンテナンスが必要とされた。それはまるで、生花に水やりをするような作業のようであった。「HAPPINESS」の作品を通して、幸せが生まれるためには日々の水やりが必要であると感じられた。

図２　「HAPPINESS」障子紙・塩ビ板・ヘリウムバルーン

図３　第 42 回 稲城市芸術祭

Ⅳ　授業実践

「HAPPINESS」の制作プロセスから得た手法を通して、保育者が子どもたちと制作することができる壁面装飾を提案し、保育内容「造形表現」の授業の中で実践した。[図4]

A　技法

「切り紙」と「にじみ絵（折り染）」の二つの技法の共通点を整理すると以下の特長が考えられる。

1）形・色彩で多様な個性を無限に表現できる
2）偶発性により想像力を働かせる
3）即興性により連続的活動につながる
4）作品の巧拙を問わない

B　材料

障子紙を使用する。障子紙の規格は 130cm、90cm、70cm、45cm と決まっているため、130cm と 90cm、を使用した。130cm は５～７名、90cm は３～４名の共同制作で行った。

絵の具は水で溶いたポスターカラーを 12 色用意した。絵の具は A4 サイズのトレーに入れ、寝かした状態で浸し込ませることができるようにし、絵の具が無駄になることがないように配慮した。

C　工程

①　正方形の障子紙を用意して折る。
②　グループ内で交替しながら切っていく。
③　絵の具で染めいく。
④　新聞紙またはダンボールの上で乾かす。
⑤　乾いたのちアイロンでしわをとる。
⑥　薄い板ダンボールに貼る。
⑦　形に沿ってくり抜いていく。

①～⑦の工程を通して、活動した結果は以下の通りであった。

①　グループ内で交替しながら切っていくことによって、共同制作の中で自分の分担を明確にすることができた。
②　絵の具で染めていくときに、子どもと活動するには２～４色の色を選ぶとよい。それ以上に多くの色を選ぶことによって、難易度があがってしまった。
③　しわを少なくさせるためには、フラットな面の上で乾かしたほうがよかった。
（ここまでが子どもと活動する範囲として考えられる。）
④　アイロン台には板ダンボールを使用した。その理由は色落ちした場合でも問題がなく使用することができるためである。
⑤　貼るための接着材として、スプレーのりとゆびのりを使用した。スプレーのりは換気の環境を整える必要があるが、きれいに仕上げることができる。ゆびのりにすることによって子どもと一緒に活動することができるが、その際は和紙がやぶれないように、やさしく塗る方法を伝えた方がよい。（もし破けてしまっても貼ることで修正することができる。）
貼り方は位置をきめ、その状態で三分の一だけめくり、その下に新聞紙をはさみ、の

図４　保育内容「造形表現」で製作した作品の展示

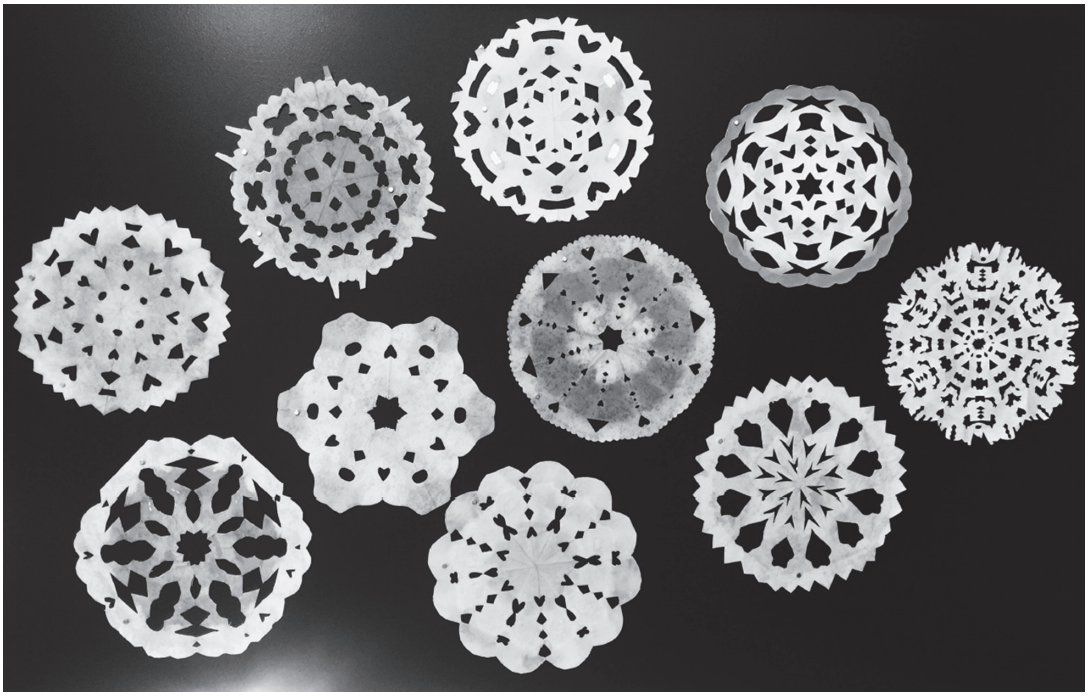

図５　背景に黒を使用した展示

りづけする。めくった状態を戻し反対側も同様におこなう。ずれ易い作業のため、数回にわけて行なったほうがよかった。

⑥　１年間展示することを考え、くり抜く作業を行なった。くり抜いたことで、壁に影ができ、作品に立体感がでた。しかし共同作業で１～２時間かかったため、時間があれば、くり抜くことができるが、くり抜かない場合は、色の濃い黒や紺などの模造紙に貼ることで色と形がはっきりと浮かびあがる。[図5]

⑦　改善すべき点は、土台に薄いダンボールを使用することで、切り口が荒くなってしまった。「HAPPINESS」では、塩ビ板を使用したため、表面の質感がコーティングされたように見え、またしわも少なく、完成度が高く仕上げることできた。今後は塩ビ板を使用した方が良かろう。

Ⅴ.おわりに

これまでの先行攻研究の中で、壁面製作における現状を把握することを目的とした事例報告や、壁面製作の歴史や意義についての考察がなされてきた。しかし、壁面製作について提案した実践報告は少ない。

そこで、「保育らしい・かわいらしい」イラストによって、多様な表現に欠けた壁面製作に対して問題意識を持ち、豊かな感性を育み、子どもたちと共に製作できる壁面製作を提案すること試みた。

それは、アート作品として展覧会に出品した「HAPPINESS」という作品の手法を、保育内容「造形表現」の授業の中で実践することであった。

その手法は、簡単なプロセスで様々な形（模様）をつくり出すことができる「切り紙」と、色の広がりを無限に表現できる「にじみ絵」の技法を用いた。また、サイズを１メートルほどの大きさに拡大することによって、共同制作に適した活動となった。製作プロセスや学生の感想と作品から考察した結果として、1）形・色彩で多様な個性を無限に表現できる、2）偶発性により想像力を働かせる、3）即興性により連続的活動になる、4）作品の巧拙を問わない、４つの特長が挙げられた。

授業で製作したのち、作品をキャンパス内のギャラリースペースに１年間展示することとした。他学年や来校した卒業生の目にも、壁面製作の一提案として提示するためである。

現場で働く卒業生から、次の季節の壁面製作についての“ネタ”がほしいと相談を受ける。多忙な保育業務の中で、子どもとの関わりと同様に、壁面製作も課題の一つとなっているようだ。新しい表現活動を探求しているようでも、壁面製作について園独自の方針や伝統があり、容易に変えられない状況も伺える。

保育内容「造形表現」を指導するにあたり、未来の保育者たちが、即戦力となれるように現場で適用していくことも大切であるが、既存の保育にとらわれることなく、常に問題意識を持って、改善策を試みる力も養っていく必要があるだろう。

今後の課題は、本提案を結実させるために、子どもたちと共に製作し、現場での実践を通して、検証する必要がある。更に、豊かな感性を育む表現活動との可能性を探求し、表現力・遊び力のある保育者養成のために、造形表現の指導を通して貢献できるように努めていきたい。

引用・参考文献及び資料

・１）幡野由理 , 山根直人 , 小田倉泉『保育環境における壁面装飾の意義 1―幼稚園教員・保育士への質問紙調査からー』埼玉大学紀要 . 教育学部　埼玉大学教育学部 編 58（2）2009 p.171 ～ 181

・２）矢口加奈子 KANAKOYAGUCHI KIRIGAMIWORKS http://www.yorokobinokatachi.com/index.html

・永倉みゆき , 奥田都子『壁面構成における造

形表現についての一考察　―構成と質感の検討を通して学生が学ぶものとはー』静岡県立大学短期大学部研究紀要（28）p.45-55 2014
・香曽我部琢, 橋本麻美, 阿部晴佳『保育室の壁面装飾に関する意識と方略 ―保育室の壁面色彩についてのSD法とのPAC分析による混合研究法の試み―』宮城教育大学情報処理センター研究紀要（22）p.15-23 2015
・鈴木法子『壁面構成とは何か1 ―明治期の幼稚園における壁面構成の萌芽―』日本保育学会第50回大会研究論文集 日本保育学会 P474-475 1997
・鈴木法子『壁面構成とは何か2―大正期の『室内装飾』―』日本保育学会第51回大会研究論文集 日本保育学会 1998
・武内裕明『保育におけるかわいいものの選択理由』―保育者へのインタビューを通じて―　弘前大学教育学部紀要（113）P105-114　2015
・正岡さち 團野真紀子『幼稚園・保育所における壁面装飾』の事例報告 島根大学教育学紀要（49）P107-111 2015